

はかない美しさの象徴であったのです。一方、雪国の人々にとっては、雪を活用した狩りや木材の輸送など冬ならではの生活を送りつつ、やはり忍耐の季節でもあったと思われます。

都市化や工業化などの進んだ現代では、降り積もる雪が災害を発生するようになりました。高速道路や国道、新幹線などで緊密に結ばれている都市も、豪雪になると車や電車がストップし、生活や経済活動に大きな障害が発生します。家や果樹、森林などが雪の重さで壊され大きな損害が生じます。また町の中では、道路をふさぐ大量の雪や家の周りの雪を、町の外に運ぶために巨大な予算を使わなければなりません。そこで、豪雪対策基本法という法律を作り、このように大量の雪が降って困る地域を指定して、国としていろいろな対策をすることになっています。この地域は日本の面積の5%にもおよんでいます。すなわち日本の半分以上が豪雪地帯なのです。

防災科学技術研究所の雪氷防災研究部門はこれらの雪氷災害を軽減するために、気象モデルを出発として雪崩、吹雪、着雪それに道路雪氷などのさまざまな災害の発生予測を実現しようと考えています。そのために、豪雪で知られる山地を含む地域を重点観測領域とし、降雪予測の精度を上げます。これを基に、積もった雪の変質を予想し、雪崩や吹雪などの災害発生を予測するシステムをつくる計画です。

また、近年広く指摘されている地球

温暖化は、とりわけ雪や氷の状態に影響をおよぼします。そこで、当部門では日本の代表的な7つの山地と、北極域の2カ所の観測点で、気象・積雪観測を実施しています。これらの観測から広い地域の積雪の季節変動や年変動が次第に明らかになってきました。これらの研究成果は、積雪のモデルに組み込まれたり、地球の気候予測モデルの改良に役立っていきます。

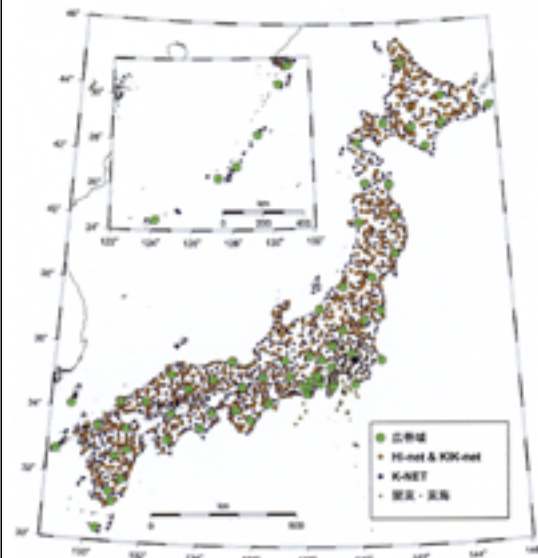
(雪氷防災研究部門 部門長
佐藤篤司)

防災研究情報センター

防災研究情報センターは、地震観測網の整備及び運用、防災科学技術に関する内外の情報及び資料の収集、整理、保管、研究所のネットワークの管理等を行います。

防災研究情報センターには、上記の

防災科学技術研究所における地震観測網
(平成12年度末)

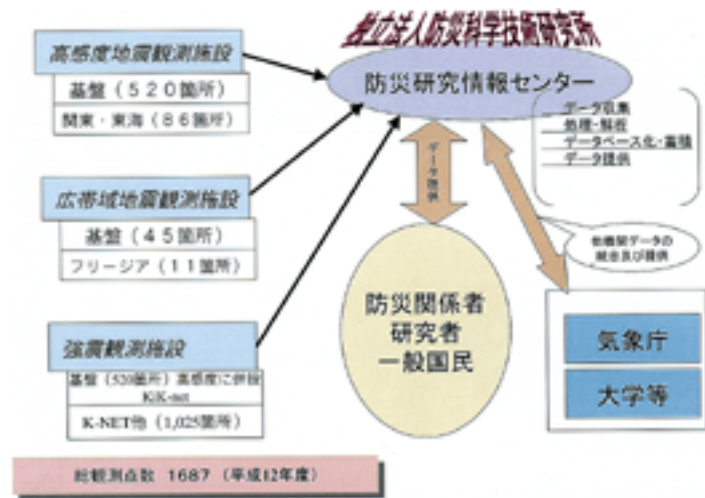


目的を達成するために、次の6つの管理室を設置します。

- 1) 高感度地震観測網の整備、運用を行う「高感度地震観測管理室」
- 2) 広帯域地震観測網の整備、運用を行う「広帯域地震観測管理室」
- 3) 強震観測網の整備及び運用を行う「強震観測管理室」
- 4) 国外における地震観測網の整備、運用を行う「国際地震観測管理室」
- 5) 防災科学技術に関する内外の情報及び資料の収集、整理、保管及び提供を行う「自然災害情報室」
- 6) 研究所のネットワークの管理を行う「ネットワーク管理室」

これら6つの管理室は、有機的に結合して、防災情報の収集・流通・蓄積を行います。

特に、地震調査推進本部の計画で進



められている全国的な地震観測については、地震観測網の整備及び運用を効率的に行うとともに、高感度、強震、広帯域等の各種の地震観測データを融合・統一し、研究者・専門家はもとより、一般国民に公開するため、新しく総合地震観測管理主幹を置き、その活動を強化していきます。

(防災研究情報センター センター長 笠原敬司)

防災科研の独法化

基本目標

災害から人命を守り、災害の教訓を活かして発展を続ける災害に強い社会の実現を目指します。

5つの大方針

- 方針1: 防災に目に見えて役立つ成果を上げることを、基本とします。
- 方針2: 幅広い分野間の有機的連携によって、総合的に研究開発を推進します。
- 方針3: 地震火山災害分野へ重点的に取り組みます。同時に、気象災害、土砂災害等の災害への取り組みも充実します。
- 方針4: 産・官・学と連携して、多方面からアプローチし、全体としての災害防止を目指します。
- 方針5: 防災分野の研究開発の先進国として、研究開発基盤の整備など積極的に国際的な役割を担います。